

(別添)

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時: R6年 4月1日 午前(午後) 2時
調査者氏名: 豊田 太郎

I) 建築物の概要

- 1. 建築物の所有者: 豊田 太郎
- 2. 建築物所在地: 豊田市西町3-60
- 3. 階数: 2階建て

どちらも「○」ができることが補助対象の条件です。

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

	チェック欄
木造住宅である	<input checked="" type="radio"/>
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	<input checked="" type="radio"/>

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目
(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

どれか一つの項目に○が入れば調査完了です。

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	<input type="checkbox"/>
	全体又は一部に傾斜や変形がある	<input type="checkbox"/>
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	<input type="checkbox"/>
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	<input checked="" type="checkbox"/>
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	<input type="checkbox"/>
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	<input type="checkbox"/>
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	<input type="checkbox"/>
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	<input type="checkbox"/>

IV) 壁の割合

どれか一つの項目に○が入れば以降の記載は不要です。

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建面(m ²)	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X					
Y					

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

The image shows a large grid for recording wall length measurements. The grid is 20 units wide and 30 units high. In the bottom-left corner, there is a coordinate system with a vertical arrow pointing up labeled 'Y方向' and a horizontal arrow pointing right labeled 'X方向'. A double-headed arrow between the two axes is labeled '1m', indicating the scale of the grid.

(イ) 壁の長さの合計

① X (横) 方向

① m

② Y (縦) 方向

② m

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ m

(ロ) 面積

ロ m²

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ ÷ ロ = ハ

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数 屋根の種類	平 家	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレー ト葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ ÷ ニ = ホ